

東大和市南街・桜が丘地 域の歴史について

東大和市の成り立ち及び南街・桜が丘地域の成り立ちの歴史を纏めてみました。(現在の地域が形成されたのは、第二次世界大戦が大きく関係しております)今後この地域がどのような形で発展させ、安心安全な街づくりが出来るか皆様で考えてみましょう。

考えよう街創り筆者

2025年10月17日

本日の講演内容は以下の通りです

- 東大和市／南街・桜が丘地域の地形を学ぶ
(防災・ハザードマップ、関連工事)
- 歴史を学ぶ (東大和市／南街・桜が丘地域)
- 東大和市／南街・桜が丘地域に どのような建築物が建設されたか／されるか
(過去・現在・未来)

確認とお願い

- 皆様は何年東大和市にお住まいですか？
5年、10年、15年、20年、30年、40年、それ以上
「本日の話の南街は1937年(昭和12年)から始まります；(88年前から)」
- 南街公民館「まちづくり懇談会」は2006年にスタートして本年度で、20年目を迎えます。

**南街 街づくり懇談会
企画運営委員募集**

南街公民館では、市民自らが企画・運営する講座を実施しています。その企画運営委員を改めて募集します。さらに地域を盛り上げていく力が必要です。一緒に身近な街づくりのアイデアを活かしてみませんか？

企画運営委員会の開催日
日時 随時（曜日は金曜日）午前10時～正午
(予定)

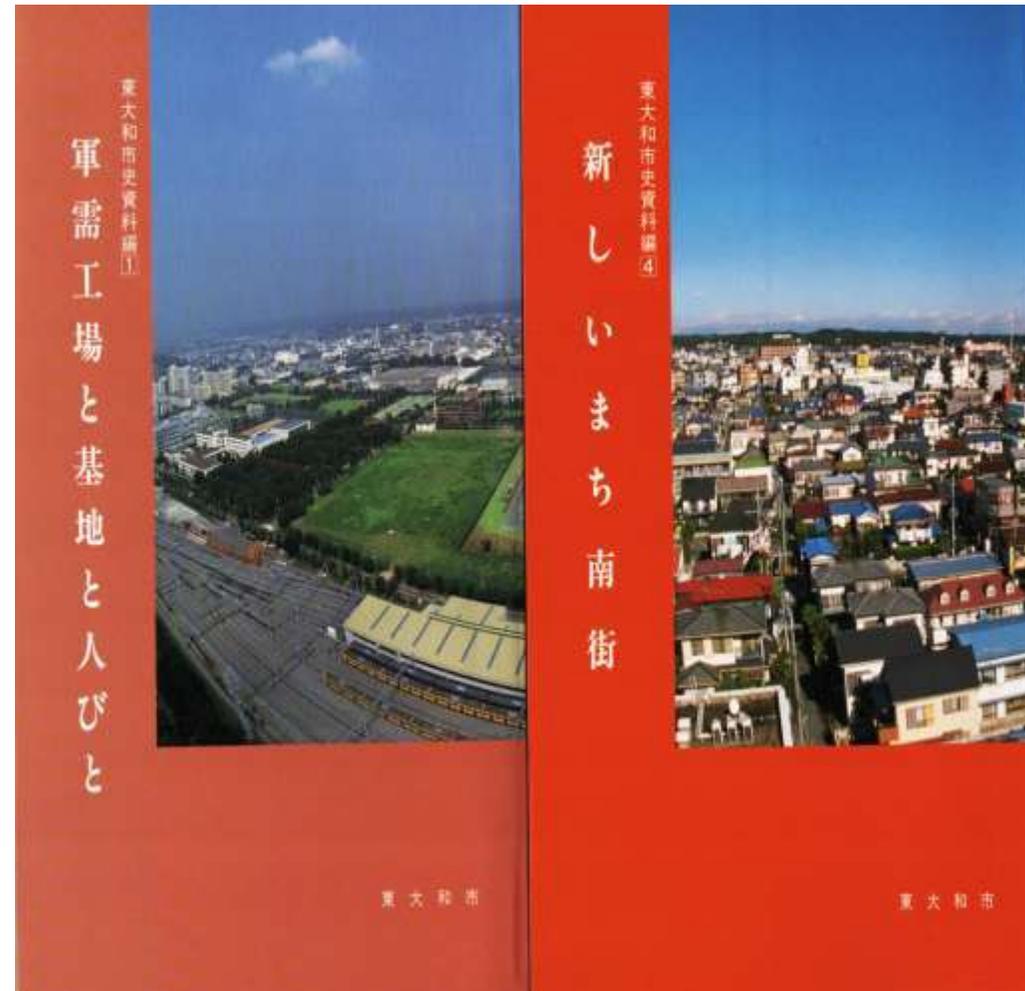
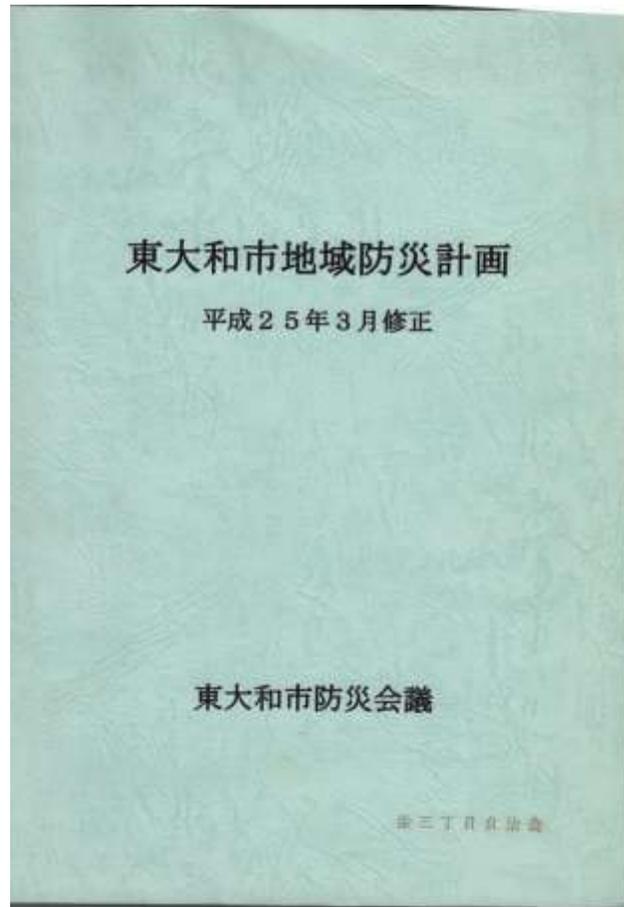
場所 南街公民館
募集人数 若干名

申込み 随時受け付けます。申込みフォーム
(右の二次元コードからアクセス可)
または南街公民館

問合せ 南街公民館



東大和市／立野・桜が丘・南街地域の防災対策／ 歴史の調査方法(使用した資料)



AIを利用した調査

昔は百科事典
を使用して調
査をしており
ました。

南街・桜が丘地域とは

- 桜が丘地域；日立航空機（陸軍エンジンの生産工場）
（東大和市駅から玉川上水駅迄；校正会霊園迄工場）
- 南街地域；工場の住宅地（昭和16年頃整備；道路は
碁盤の目、上下水道完備）
 - 住民は全国から流入し、生産工場の為、人材的には種々の能力を持った集合地域となった
 - 自治会は100%加入(水道事業が市に移管する迄は)
- 南街 v s 本村地域の差別化
- 地番は南北の帯状(南街は正式地番には無し、市制で南街となった)
 - 西より；芋窪、蔵敷、奈良橋、高木、清水、狭山
- 自治会名；栄1～3、協和1～3、末広1, 2、大和通り、親和(旧南街地域)
- 学校；大和小学校、中学校、大和小学校分教場(南街)
- 桜が丘のマンション；29年前にグランバサージュが建設今に至る
- 地域として地縁、血縁の全くない地域／地域を纏める何らかの方法が必要

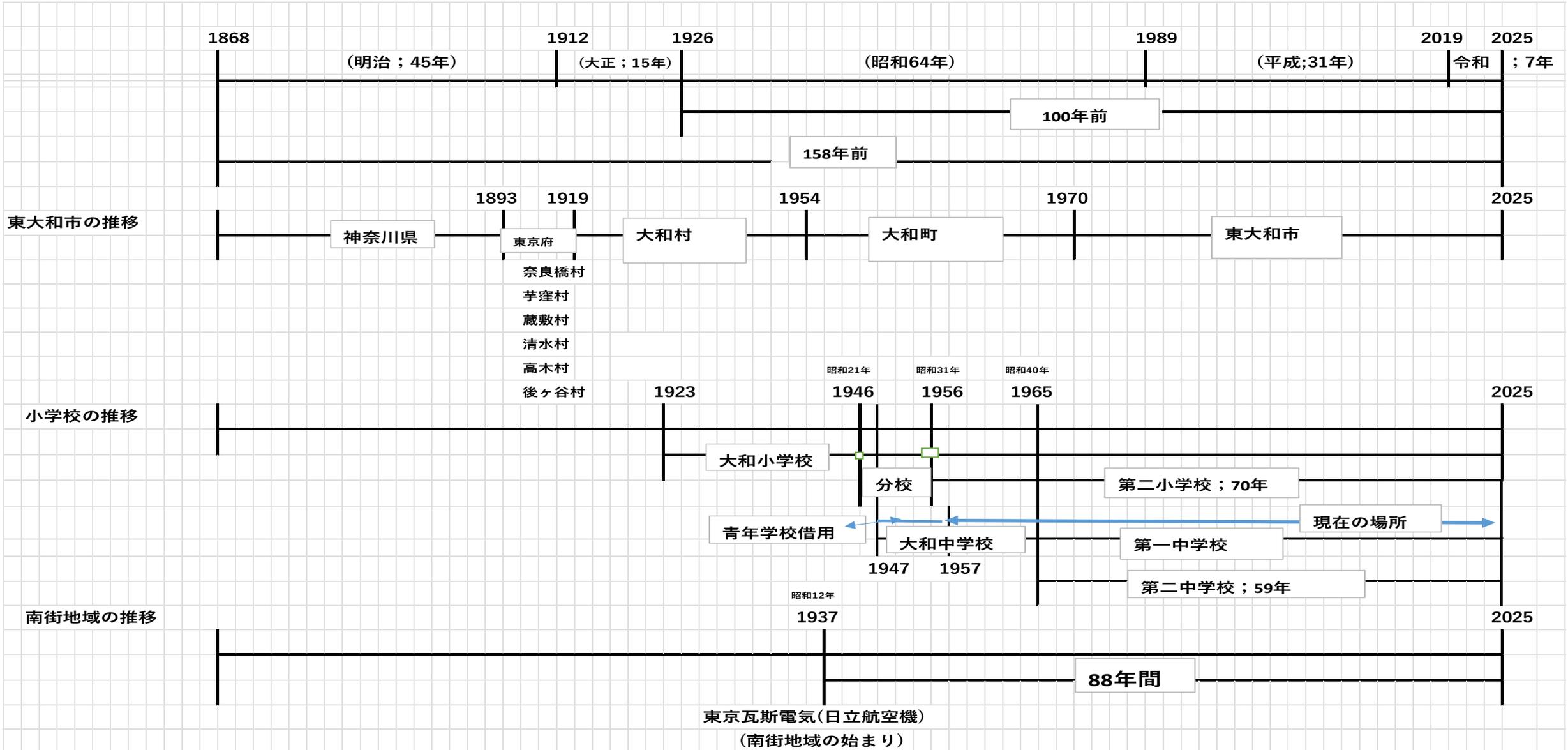
南街・桜が丘地域の特徴

地盤的には問題ない地域である

- ・ 立川断層が近くにあるが直下ではない
- ・ 天災に対して問題が少ない
津波、洪水、崖崩れ、液状化
- ・ 南街地域は家屋密集地域である。
(市の人口の約25%が狭い地域に居住している)
- ・ 南街地域は地震に対しての高危険度地域である
- ・ 南街地域は高齢者が極めて多い(老老防災)
- ・ 地震に関する地域危険度測定で高度危険地帯と判定された。

この為当該地域は災害時に火災発生対応が必須である

東大和市(南街地域)の歴史



地形と災害対策（天災／人災）とは

- 地震 ; • 建物崩壊、火災
(天災) • 洪水 ; 堤防崩壊による河川の洪水、堤防越水
 - がけ崩れ(山体崩壊)
 - 津波 ; 海岸堤防の崩壊 / 越水
 - 交通事故
- 台風 / 線状降水帯(梅雨 / 夕立) ;
(天災) • 建物崩壊(強風による)
 - 洪水 / 高潮 / 浸水(この地域は浸水被害が多い)
 - がけ崩れ
- 火災 ; • 失火による大火
(人災)

(この地域は ; 川、湖、湿地、山、海、のいずれも無い高低差の少ない土地です)



空堀川

東大和市

至青梅

第八小学校

第二小学校

南街交番

東大和市駅

野火止用水

住宅街

青梅街道

小川宿

玉川土水

緑木林

台地・段丘

出典

土地の成り立ち 周囲より階段状に高くなった平坦な土地。周囲が侵食により削られて取り残されてできる。

この地形の自然災害リスク 河川氾濫のリスクはほとんどないが、河川との高さが小さい場合には注意。縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れや液状化のリスクは小さい。上記は一般的な自然災害リスクであり、個々の場所のリスクを示しているものではありません。

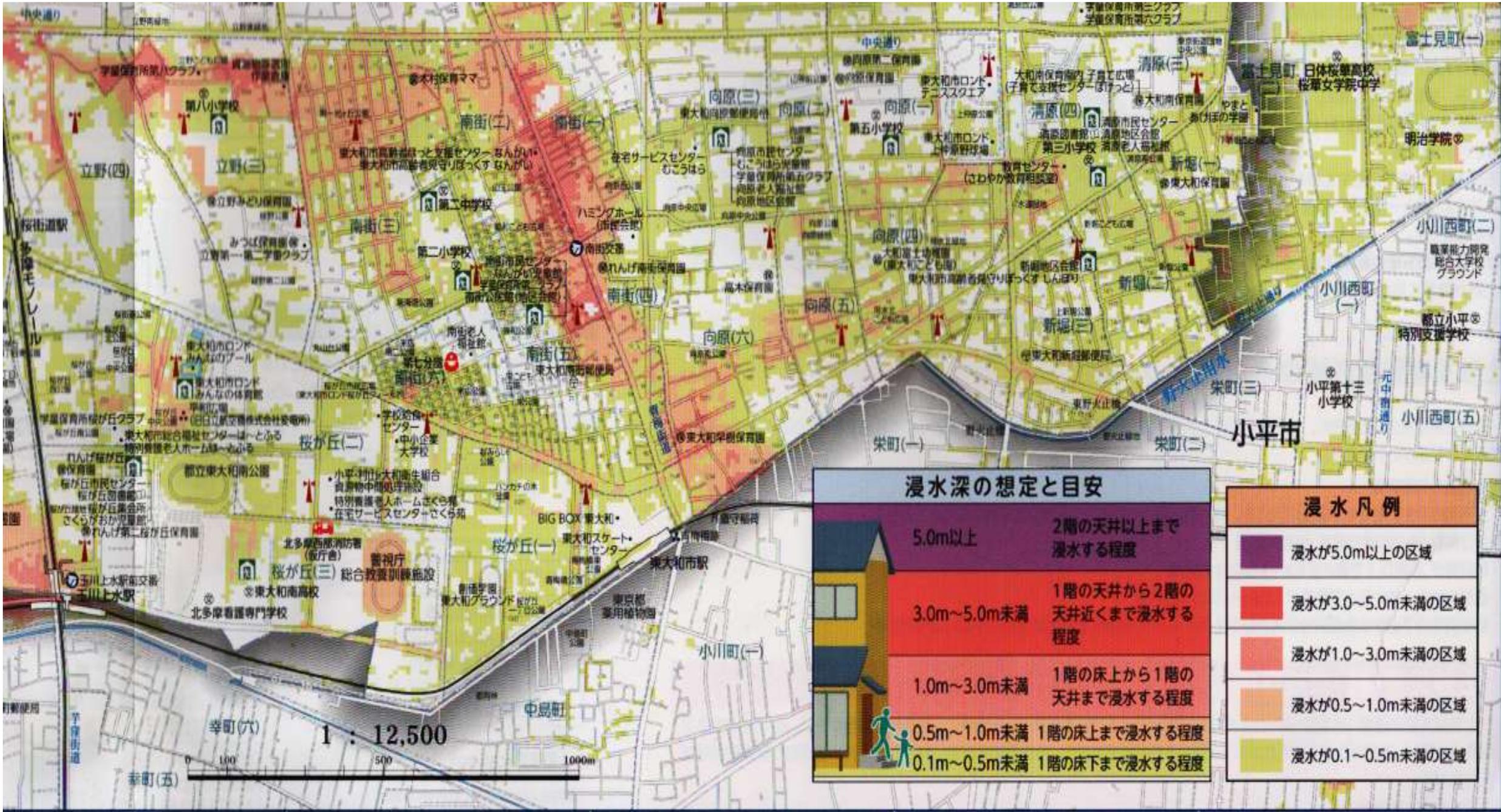
配色	地形分類
	山地
	崖・段丘崖
	地すべり地形
	台地・段丘
	山麓堆積地形
	扇状地
	自然堤防
	天井川
	砂州・砂丘
	凹地・浅い谷

南街・桜が丘地域の浸水は？

水害；次の3種類に区別される。

- 浸水(南街・桜が丘地域)、洪水、津波





浸水深の想定と目安

5.0m以上	2階の天井以上まで 浸水する程度
3.0m~5.0m未満	1階の天井から2階の 天井近くまで浸水する 程度
1.0m~3.0m未満	1階の床から1階の 天井まで浸水する程度
0.5m~1.0m未満	1階の床まで浸水する程度
0.1m~0.5m未満	1階の床下まで浸水する程度

浸水凡例

	浸水が5.0m以上の区域
	浸水が3.0~5.0m未満の区域
	浸水が1.0~3.0m未満の区域
	浸水が0.5~1.0m未満の区域
	浸水が0.1~0.5m未満の区域

防災(減災)の工事が実施されております！！

どのような工事が実施されているのか！！

「南街・桜が丘地域の防災(減災)対策」

注目工事が始まっております

・なぜ「空堀川上流雨水幹線工事」が必要なのか??

現在東大和市で大規模工事が実施 されております

- 工事名；空堀川雨水幹線事業
(東京都が工事)
- 東大和市南部(南街・桜が丘地域を含む)地域を浸水から守る。(将来的には武蔵村山市まで延長されます)

東大和市の南部地域の浸水(雨水)対策

空堀川上流雨水幹線の整備について (1/2)

令和4年6月
東京都下水道局流域下水道本部

事業目的

- 東大和市・立川市・武蔵村山市の一部の地域では、河川より地盤が低いなどの地形的な理由により、**浸水被害が頻発**しています。
- 本事業は、これらの地域における浸水被害への対策として、新たに空堀川上流雨水幹線の整備を行うものです。

《空堀川上流雨水幹線のルート図》



(平成28年8月の台風被害状況)

※ 流域下水道雨水幹線について

- 下水道は、道路や宅地に降った雨水を速やかに排水し、浸水から街を守る役割を担っています。
- 雨水排除施設の整備は、原則、市町村が実施することになっていますが、雨水の放流先などがなく、市単独での雨水排除が困難な場合は、複数市にまたがる広域的な雨水排除施設が必要です。
- 本事業においては、都が流域下水道雨水幹線(空堀川上流雨水幹線)を整備し、市と連携して浸水被害の軽減に取り組みます。

一般的な雨水対策イメージ



各市単独で対策

流域下水道雨水幹線による対策イメージ



複数市にまたがる流域下水道雨水幹線を東京都が整備

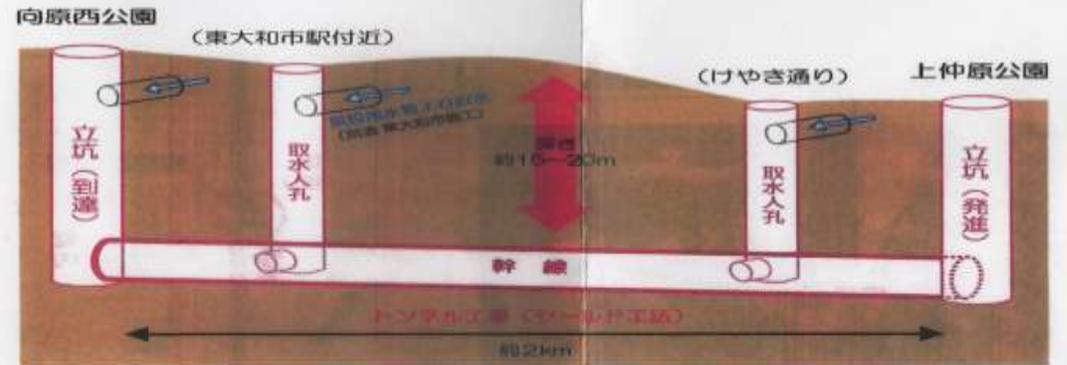
流域下水道雨水幹線

整備内容 (今回工事)

- 今回工事では、上仲原公園～向原西公園を結ぶルートを整備します。
- 完成区間を貯留管として暫定稼働することで、**早期の効果発現**を目指します。

2022.06.06日
中野区

《縦断面図》



※整備内容の詳細は裏面をご覧ください

事業スケジュール (予定)

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度～
施工 (今回工事)		[Red bar indicating construction period]			
施工 (継続工事)					[Black bar with arrow indicating ongoing work]

お問合せ先

東京都下水道局 流域下水道本部 技術部 設計課
三瓶・森下・佐藤 TEL: 042 (527) 4409

今回工事区間



第一期工事日程

工種	R6年度			R7年度				R8年度				備考	
	10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
準備工	■												
工事場所① (TNo1)							■	■	■	■	■	■	
工事場所② (TNo2)		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
工事場所③ (TNo4)		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
工事場所④ (TNo5)							■	■	■	■	■	■	
公園等復旧												■	
後片付け												■	
別途工事 (シールド工事)	■	■	■	■	■	■	■	■	■				

この工事は将来第二小学校南前の道でも実施されます

《空堀川上流雨水幹線のルート図》



 : 主な浸水被害頻発箇所

 : 今回工事区間
(延長 約2.0km)

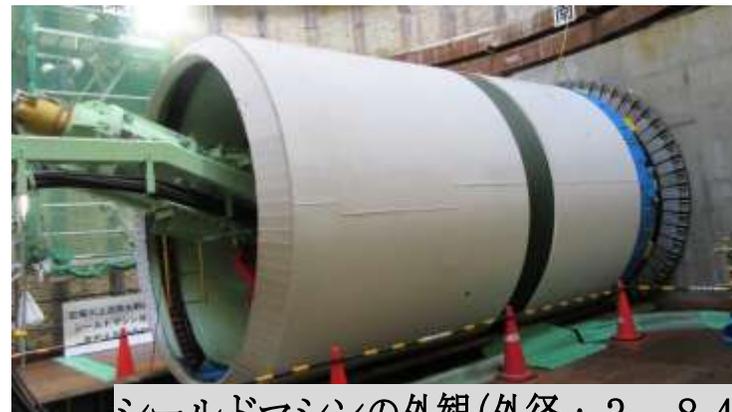
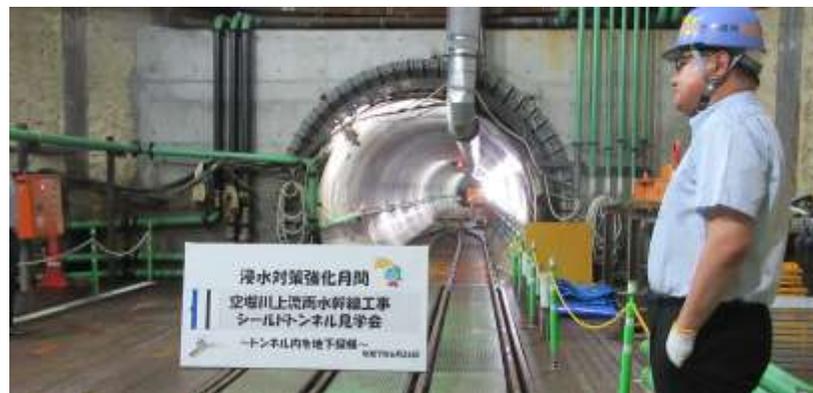
 : 継続工事区間
(延長 約7.5km)

東大和市駅付近



東大和市(新堀地区)





シールドマシンの外観(外径 ; 3、840mm,長さ ; 6、310mm)

南街・桜が丘地域の成り立ち



南街の名称の由来

南街（なんがい）の名前の由来は、**「南の工場街」**という通称にあります。

歴史的背景

- 1938年（昭和13年）、航空機エンジンを製造する工場が東大和市の南側に移転。
- それに伴い、社宅・学校・商店街などが整備され、地域が急速に発展。
- 当時、北部は農村地帯だったため、工場が集まる南側の街は「南の工場街」と呼ばれるように。

地名の正式化

- この「南街」という呼び名は地元で定着し、1980年（昭和55年）に**正式な行政地名**として採用されました。
- つまり、住民の間で使われていた通称がそのまま町名になった、地域の暮らしと密接に結びついた名前です。

桜が丘の名称の由来

戦後の土地利用と開発

- この地域は**戦前、日立航空機立川工場**があり、戦後は**GHQに接收**されて「大和空軍施設」として利用されました。
- 1973年に返還された後、**住宅地として再開発**され、町名地番整理が進められました。
- その際、**新しい町名として「桜が丘」**が採用されました。

地名の意味とイメージ

- 「桜」は日本人にとって**春の象徴**であり、**親しみやすい花**。
- 「丘」はこの地域が**緩やかな高台に位置する地形**を表しています。
- これらを組み合わせた「桜が丘」は、**美しい自然と穏やかな住宅地のイメージ**を持たせるために選ばれたと考えられます。
- 又現在の東大和市駅(旧青梅橋駅)から武蔵村山市の国立武蔵村山医療センター付近まで得江戸代からの桜街道には道の中央に桜の木が植えられおりました。

青梅橋の名称の由来(青梅橋駅→東大和市駅)

青梅橋の名称の由来

「青梅橋」という名前は、青梅街道が野火止用水を横断する地点に架けられた橋に由来します。この橋は、**承応4年（1655年）**に野火止用水が開削された際に設けられ、交通の要所として重要な役割を果たしました。

名称の背景

- 青梅街道は、青梅成木から江戸へ石灰を運ぶための主要な物流路でした。
- この街道が野火止用水と交差する地点に橋が必要となり、架けられたのが「青梅橋」。
- 橋の名前は、街道の名称「青梅街道」にちなんで付けられたと考えられています。

地名としての定着

- 橋は昭和38年（1963年）に野火止用水の暗渠化に伴い消滅しましたが、「青梅橋交差点」や「青梅橋公園」などの地名にその名残が残っています。
- かつての「青梅橋駅」は、1979年に「東大和市駅」へ改称されましたが、駅名にも橋の名称が使われていたことから、地域に深く根付いた名称だったことがわかります。
- 江戸時代の青梅街道はここから左折して現在の武蔵村山市へ向かいますが、ここを左折すると青梅の方向が初めて見ることが出来るので、青梅橋としたとの話もあります

南街・桜が丘地域のまちの成り立ち

- 1911年 (明治44年) 埼玉県所沢市に飛行場が初めて開設 (所沢試験場、のち所沢陸軍飛行場)
- 1921年 (大正10年) 陸軍が東京周辺に飛行場の開設を決定
→ 立川村に飛行場新設が決定
- 1930年 (昭和5年) 石川島飛行機製作所 (立川飛行機株), 昭和飛行機株等の工場建設
- 1933年 (昭和8年) 立川飛行場が軍民共有から陸軍専用基地に変更
- 1934年 (昭和9年) 陸軍航空本部補給部が所沢から移駐
- 1937年 (昭和12年) **東京瓦斯電気工業株が大和村に航空機部門の建設を決定**
- 1938年 (昭和13年) 全国唯一の陸軍航空工廠が名古屋から誘致
- 1939年 (昭和14年) 日立航空機株立川発動機製作所と社名変更

日立航空機株式会社立川工場最後拡張計画図
(昭和25年度完成予定)



理想工業都市構想

ドイツナチスによるジードルングの運動というのがあつた。労働者に職を与え、土地と家屋と家畜とを与えて、安定した生活をつくりあげる。労働者は一日の労働に疲れて自宅に帰り、新鮮な空気を吸い、和やかな家庭的慰楽いらくの生活に浸り、新しい明日への活動に対する力を回復するといふ都市構想、これがジードルングで、当時ドイツで企業経営に多く使われていた。

ジードルングといふのは、都市郊外に一団として建設される集合住宅という意味である。ドイツで一八一八年住宅法が制定され、特にその政策を工業を主体とする企業が採り入れていた。

(元日立航空機専務 内山直さんの手記)



日立航空機立川工場事務所



のものに、

日立航空機立川工場の裏門（現ゼノア正門）この門の外側に診療所があった

日立航空機立川工場歌

一、武蔵野はるか野に
 天の青はるかに
 航空機は日本を
 飛ぶこの翼が
 命に輝く我が日立

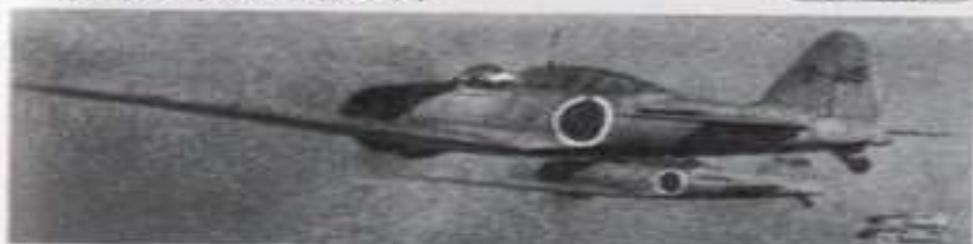
二、平和の響くわしく
 世界の業に身を捧げ
 清きたつ気魄と燃えて
 心一つに響きたつ
 希望は輝く我が日立

三、新うつつの進歩力
 鋼鉄に生命打ち込みて
 地を這うの車輪に
 軍艦の火を射るしつ
 空に飛ぶ我が日立

四、御成の下に集めて
 心を結へば力を
 買ひ取りて一新に
 進歩の道を行く
 め、我が日立航空機

「日立航空機立川工場歌」（日立航空機立川工場産業報国会選・陸軍戸山学校軍楽隊作曲）

零式戰鬥練習機(海軍)



完成機

93式中間練習機(海軍)
通称「赤とんぼ」



九五式1型練習機(陸軍)
ハ-12 E/G搭載



九九式高等練習機(陸軍)
ハ-13甲E/G搭載



九八式直接偵察機(陸軍)
ハ-13甲E/G搭載

当社製発動機搭載機

「ハ-13甲」(陸軍)
「天風21」(海軍)
航空発動機
空冷9気筒480HP



当社航空E/G搭載の主な軍用機
(当社完成機の機種を除く)

機式名称	搭載E/G	機数
〔陸軍機〕		
九五式1型練習機	ハ-12	2618
九八式直接偵察機	ハ-13甲	1369
九九式高等練習機	ハ-13甲	1386
一式双発高等練習機	ハ-13甲双発	1342
九五式2型練習機	ハ-13	560
〔海軍機〕		
白鷺機上作業機	天風21	約 800
九〇式機上作業機	天風11	317
九〇式水上練習機	天風130	299
東海海上哨戒機	天風31	153



日立航空機社章

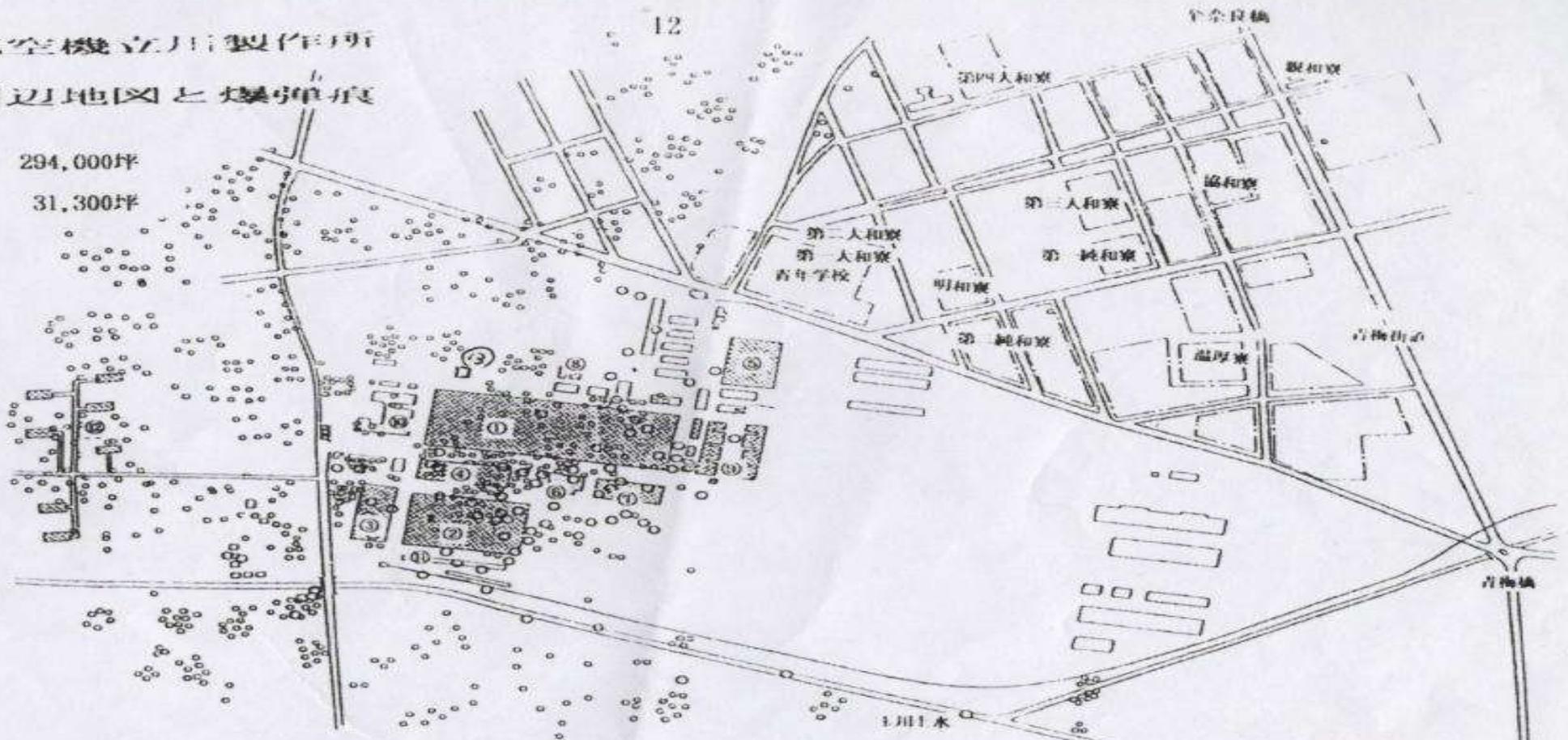


航研機と記念切手(昭和14-12-1発行)



日立航空機立川製作所 工場周辺地図と爆弾痕

工場総敷地 294,000坪
建物総面積 31,300坪



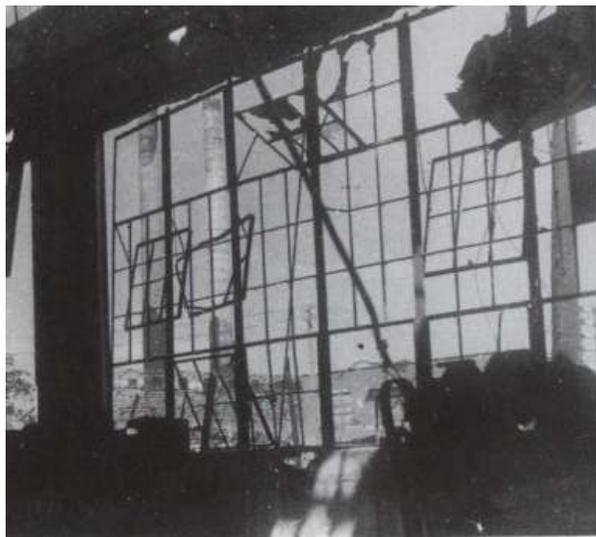
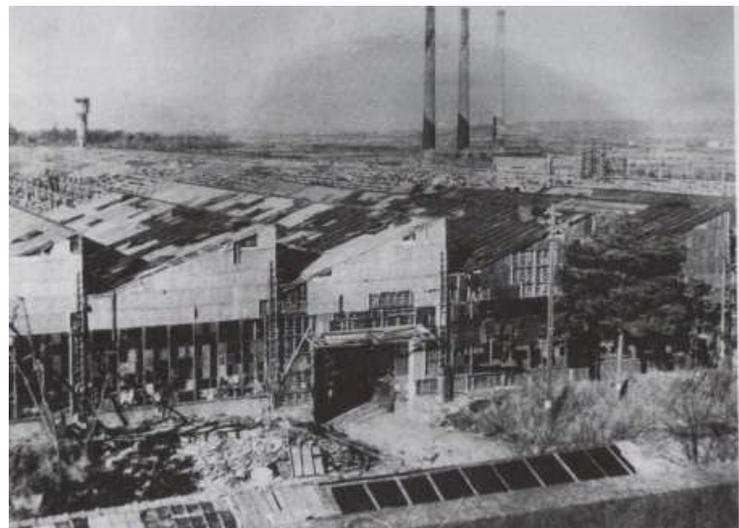
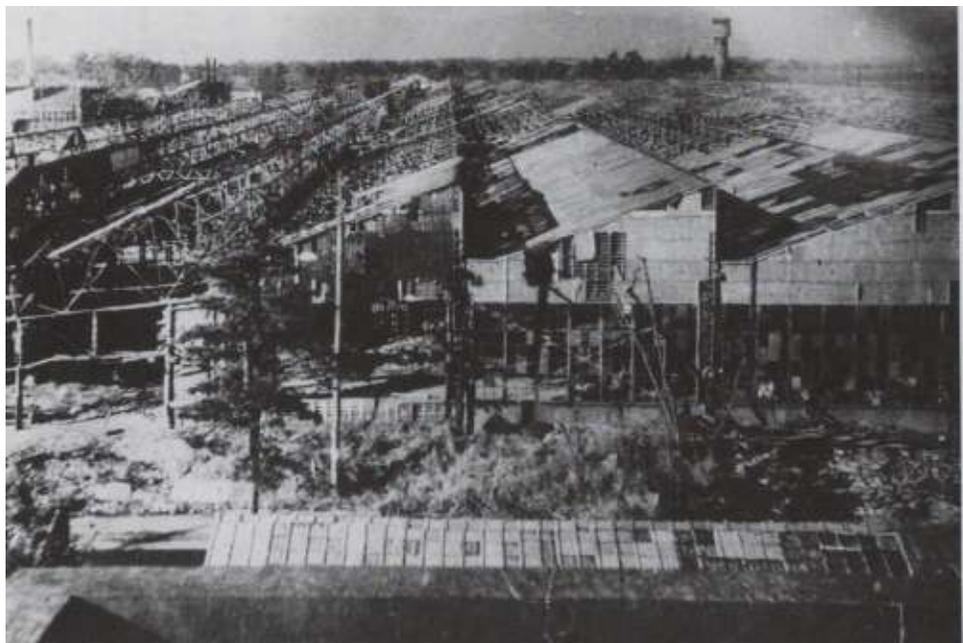
昭和20年2月17日、4月24日の爆撃による被害度

建物 NO.	施設	面積 (坪)	被害度 %	
			2/17	4/24
1	機組、組立工場	11,300	30	90
2	工具、白工具工場	5,000	70	90
3	試作工場	1,500	90	100
4	熱処理工場	1,400	80	90
5	機械工場	2,000	0	0
6	倉庫	500	100	100
7	プレス、塗装工場	1,100	70	20
8	ボイラー室	200	0	70
9	エンジン運転場	900	0	0
10	事務所	400	0	100
11	倉庫	600	40	0
12	材料工場	1,100	0	30
13	変電所		0	0

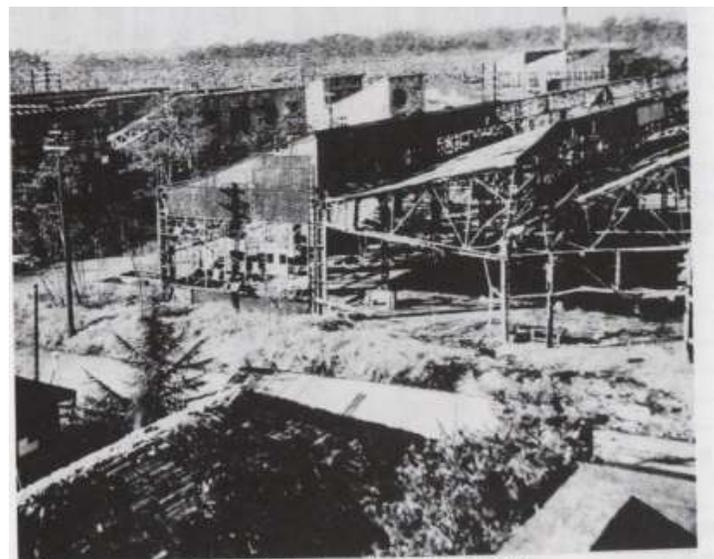
○ : 1945. 2. 17 空襲の爆弾痕
◐ : 1945. 4. 24 空襲の爆弾痕

製作 航空発動機
機種 ハー12・ハー13(7気筒 350 HP)・ハー13甲(9気筒 450 HP)
ハー26(18気筒 900 HP)・ハー112(1200 HP)

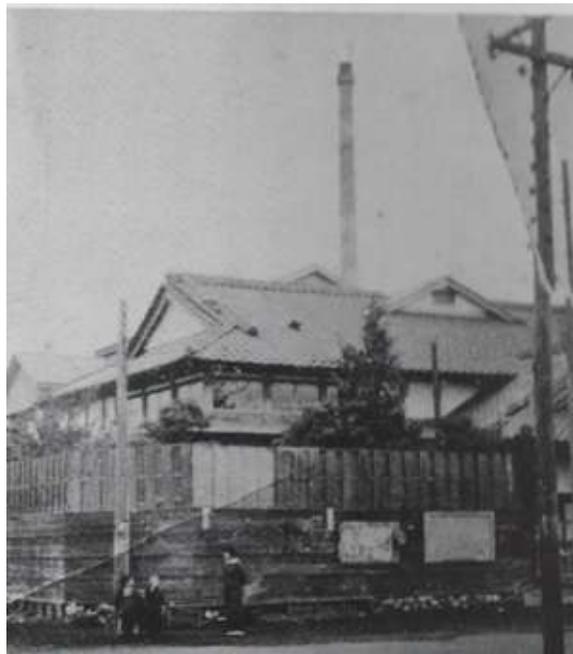
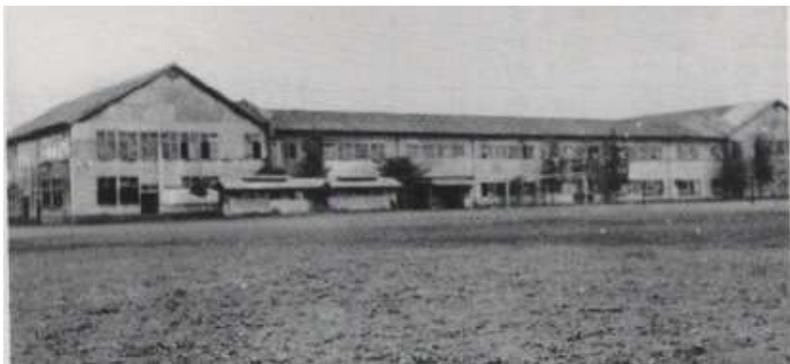
日立闘友会刊行物より



第1工場の内部から三本煙突を見る



骨組みだけになってしまった工場の姿



迎賓館跡 (現IHI寮付近)



元グラウンド跡 (現新海道住宅) S34

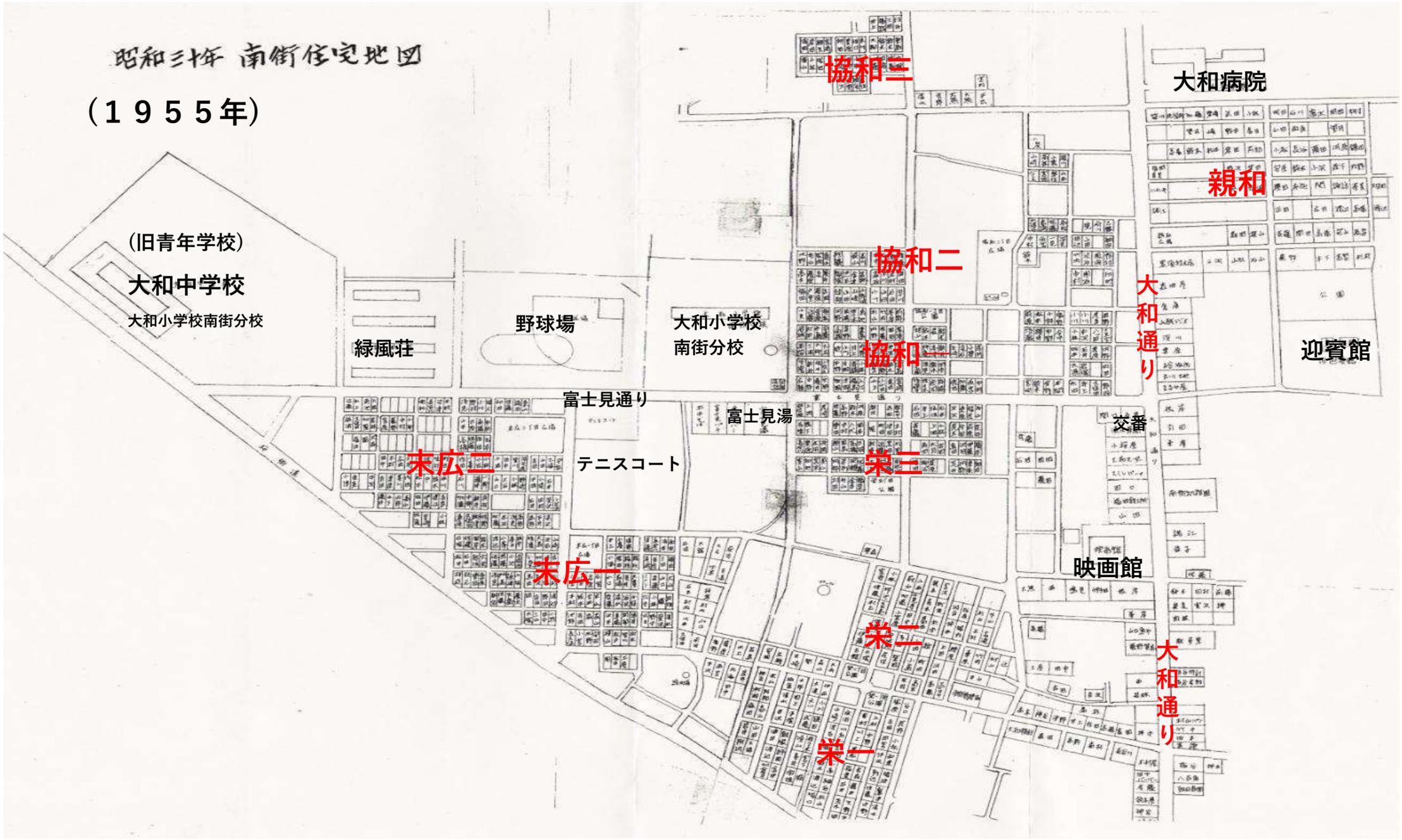


女子寮 (純和寮)



娯楽の中心、映画館 (昭和28年8月)

昭和三十年 南街住宅地図
(1955年)



(旧青年学校)
大和中学校
大和小学校南街分校

緑風荘

野球場

大和小学校
南街分校

富士見通り

富士見湯

テニスコート

末広一

末広二

協和二

協和一

栄一

栄二

栄三

協和三

大和病院

親和

大和通り

迎賓館

交番

映画館

大和通り

現在でも継続している内容

- 都市計画区域

1939年5月(昭和14年)；

都市計画法により、**立川都市計画区域**となった。

(立川町他十か町村；大和村も含む→**現在も変わらず**)

- 現在の自治会名の命名時期

1940年9月(昭和15年)；

部落会・隣組・常会が設置される。

(**この時期に、今の自治会名が付与されたのではないかと推測します**)

戦前の本村と南街の様子

⑥ 本村と

南街の子ども

大和村や村山村は「東京のチベット」といわれる程貧しく、文化が入ってこない所といわれていた。

そこへ都会から多少でも文化的洗礼を受けた人たちが移り住んだわけである。

南街と本村の間には何もない地帯があったので、毎日、いざこざがあったわけではないが、学校へ通う子どもたちの間では生活の格差で問題が起こったこともあったという。

服装も本村は着物や縮入れ半纏てん、社宅の子は洋服、持ち物など、母親として目立たぬよう気をつかったつもりだが、子ども同志のあつれきはあったようだ。



昭和15年に建設された村役場。昭和57年に新市庁舎に移るまで



市役所正面のたれ幕「大和基地の跡地は市民のものに」

1973年頃

爆撃で残った南街住宅地／工場の一部

- 爆撃されなかった南街住宅地／工場の一部が残っていたので今の南街地域の発展があった。(なぜ米軍はこの地域を爆撃しなかったのか?)
- 桜が丘地域は工場地域で多くの工場(1950年には中小75工場)があったが、日産村山、小松ゼノア、ブリジストン等の撤退／生産縮小により、これら中小工場も撤退し、高さ制限のない用土地域の為、マンション群の建設が開始された。



爆撃のあとが、いまでも生なましく残る変電所。周囲の建物が取り壊され、仮設のさくがはりめぐらされている



電電公社社宅よりゼノア方向を望む S39



いまでも戦争の爪あとをくっきり残している給水塔

米軍基地の建設と反対運動

- 1950年（昭和25年）
朝鮮戦争の勃発により、米軍基地の新設計画が浮上。
- 1952年（昭和27年）
西武鉄道所有地が米軍兵舎用地として通告される。大和村では「在日合衆国軍兵舎接地反対期成同盟」が結成され、村民大会など反対運動が展開。
- 1953年（昭和28年）
土地収用が認定され、7月15日に正式に収用。中学校の移転費用などがバーターとして交渉される。

✈ 基地の開設と運用

- **1955年（昭和30年）**
極東空軍「大和基地」として完成。
- 1956年（昭和31年）2月24日
正式開設。立川空軍基地D地区の一部として位置づけられ、宿舎や教育施設が整備される。

🌿 返還と跡地利用

- **1973年（昭和48年）**
第14回日米安全保障協議委員会で返還が合意され、同年6月30日に全面返還。
- 1980年代以降
跡地には公園、高校、給水所、警視庁訓練施設、住宅団地などが整備され、地域の再生が進



大和空軍施設返還国有地処理大綱(案)見取図



昭和56年6月1日、国有財産中央審議会は上図の跡地の処理大綱案を承認し、大蔵大臣に答申、処理の大綱が決定した

1961年 (昭和36年)



昭和30年2月

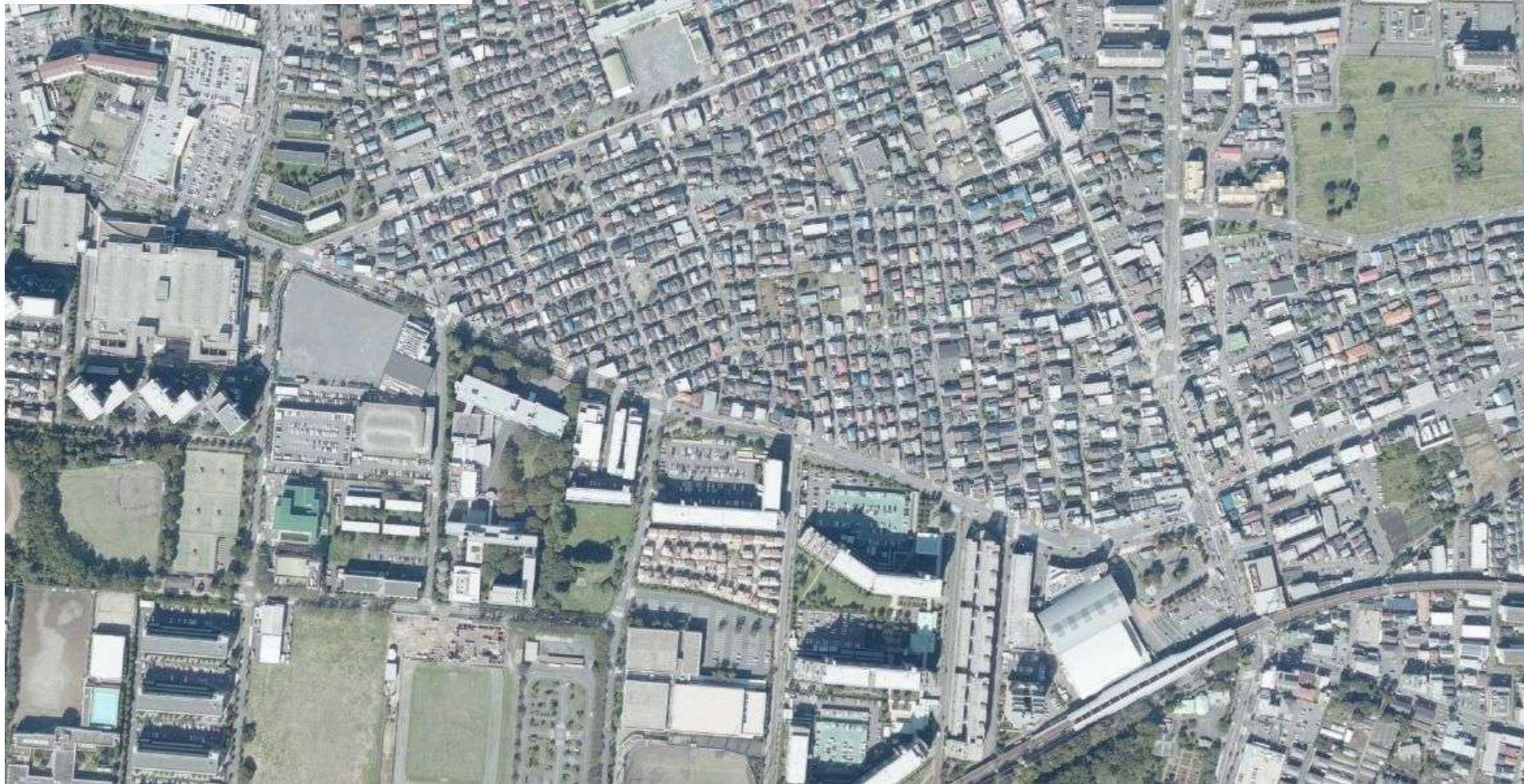
東大和病院南から奈良橋庚申塚方面

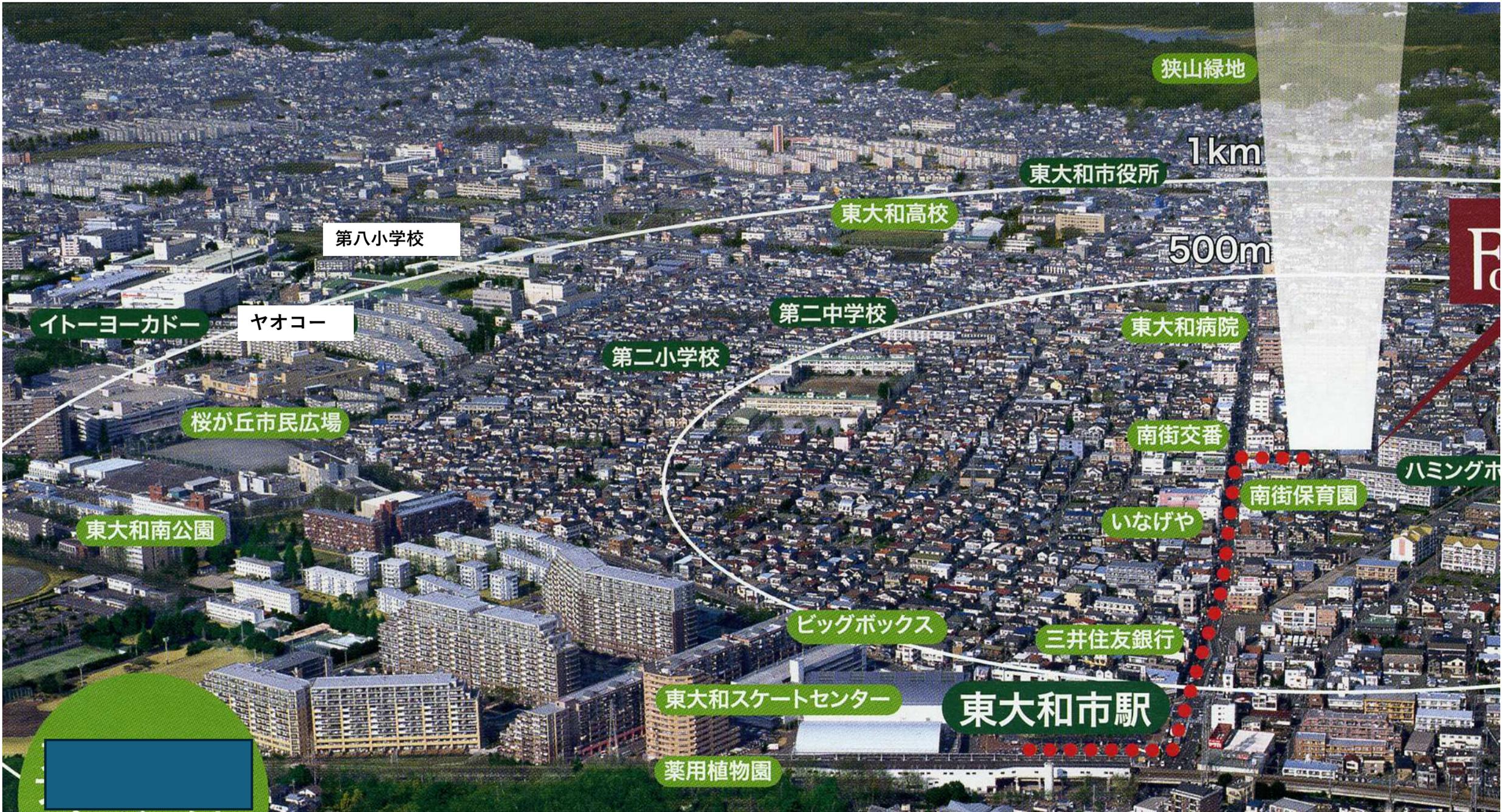
管理番号	MK0615
丁名(地番)	028
支所番号	24
標準市町村	1961/1945/2004
標準地番	036
標準面積(m ²)	2000
標準容積率(%)	30000
標準人口(1000人)	
人口密度	100
標準面積(m ²)	640,000
人口(1000人)	1,100
標準人口	1,100
標準面積	640,000



2019年(令和元年)

移動モード 回転モード 回転を戻す





狭山緑地

1km

東大和市役所

500m

東大和高校

第八小学校

第二中学校

東大和病院

イトーヨーカドー

ヤオコー

第二小学校

桜が丘市民広場

南街交番

ハミングホ

東大和南公園

南街保育園

いなげや

ビッグボックス

三井住友銀行

東大和スケートセンター

東大和市駅

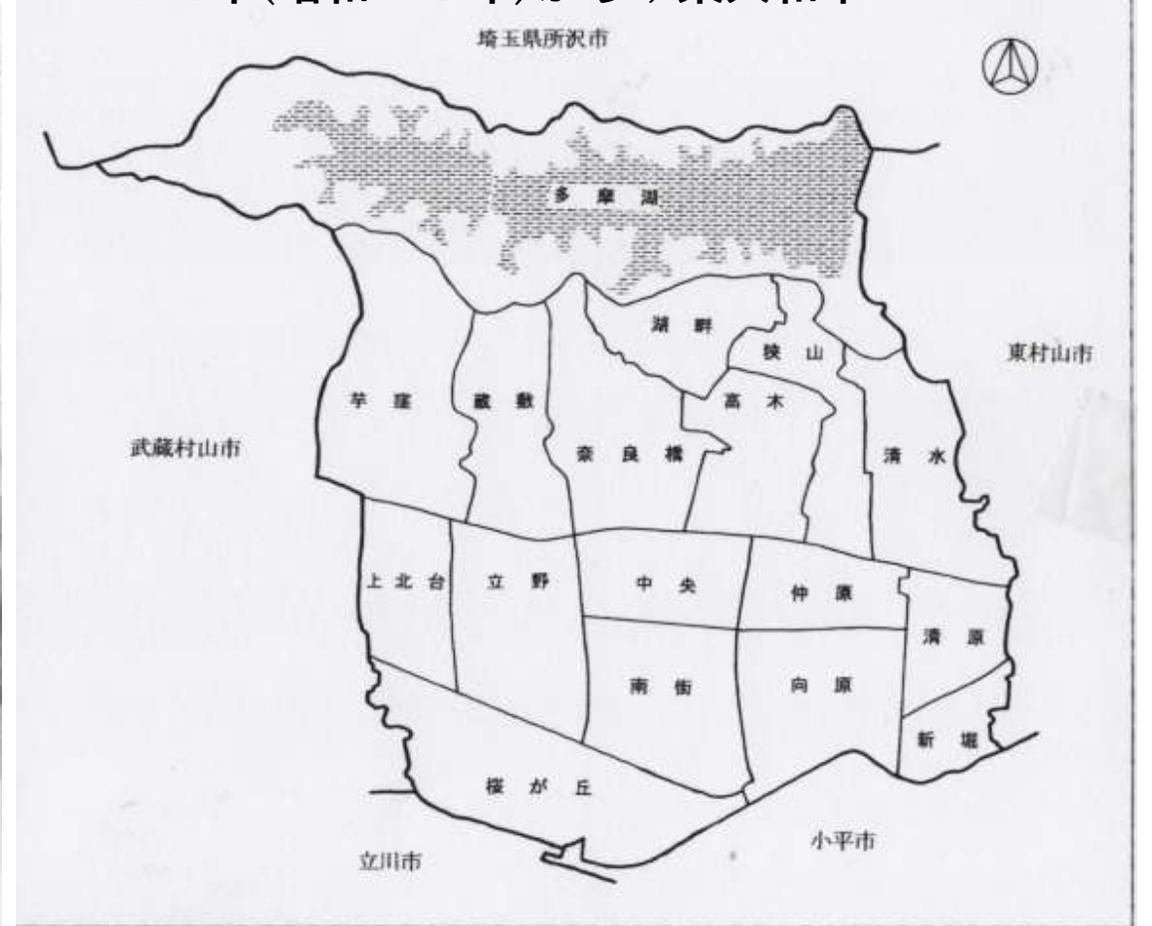
薬用植物園

旧及び新地番の相違

1919年(大正8年)～大和村、大和町；1970年まで



1970年(昭和45年)から；東大和市～

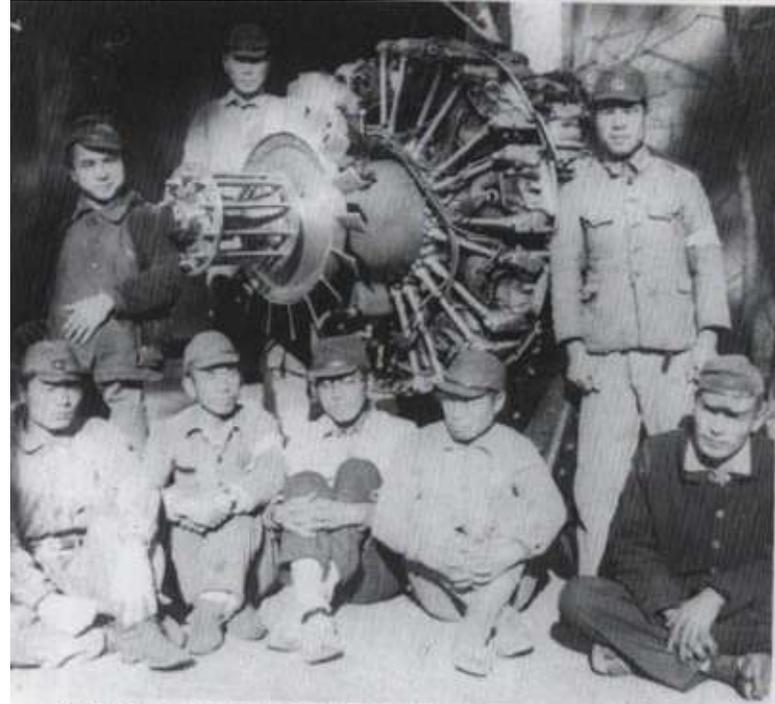


東京瓦斯電～小松ゼノア迄の推移

- 1949年（昭和24年）：戦後の企業再建整備法に基づき、日立航空機は解体され、**「東京瓦斯電気工業株式会社」**として再出発しました。これが現在のハスクバーナ・ゼノアの源流のひとつです。
- 1953年：富士自動車株式会社と合併し、立川工場は富士自動車の一部となります。
- 1962年：**小松製作所（コマツ）**と業務提携を開始。
- 1972年：大日本機械工業株式会社と合併し、社名をゼノア株式会社に変更。
- 1979年：小松部品株式会社と合併し、小松ゼノア株式会社となります。
- 2000年（平成12年）に東大和市から移転。



電電公社社宅よりゼノア方向を望む S 3 9.



終戦直後、アメリカ軍の命令で、こわれたエンジンを組み立てた。
その後アメリカ軍に接収された

桜が丘地域マンション等の竣工年月

- 西武東大和マンション（西武東大和ハイツ）
竣工年月：2003年3月
 - ステイツ武蔵野東大和グランパサージュ（グランバサージュ）
竣工年月：1996年1月
 - 東京ユニオンガーデン
竣工年月：2006年8月
 - プラウド地区住宅
竣工年月：2010年1月
 - オーベルグランデュオ（オーベルシリーズ）
竣工年月：2010年10月
 - 高木青梅橋マンション
竣工年月：1980年
 - 高木第二青梅橋マンション
竣工年月：1982年4月
 - 森永社宅（森永乳業・多摩工場関連）
社宅設立：1960年代後半～1970年
- 第一光が丘；竣工；1964年(昭和39年)
 - 新海道地区；竣工；1973年(昭和48年)
 - 丸山台住宅；竣工；1976年(昭和51年)

富士見通り商栄会及び大和通り共栄会の歴史

・富士見通り商栄会の歴史

- ・ 昭和30年(1955年)；富士見通り商栄会発足
- ・ 昭和37年(1962年)；大和町内で初めての舗装道路建設
- ・ 平成元年(1989年)；道路改修(歩道設置)／街路灯設置
- ・ 平成26年(2014年)；道路全面改修(歩道インターロック)

／街路灯のLED化

・大和通り共栄会の歴史

- ・ 昭和25年(1950年)；大和通り共栄会の発足
- ・ 昭和38年(1963年)；道路の舗装が完成
- ・ 平成元年(1989年)；道路改修(歩道設置)／街路灯設置／電柱を民地に移設
- ・ 平成20年(2008年)；青梅街道と26号線の交差点に桜(陽光)の植樹決定
- ・ 歩道拡幅事業／雨水対策を含む

‘ ・ 第一期；平成27年度(2015年度)区間；東大和駅前～南街交番
(街路灯も新規にLED化を行った)

‘ ・ 第二期；平成28年度(2016年度)区間；南街交番～東大和病院

‘ ・ 第三期；平成30年度(2018年度)区間；東大和病院～中央通り

- ・ 東大和市商工会；1967年昭和42年設立；商工会館建設；1978(昭和53年)

昭和30年前後の富士見通り商栄会

(当時を知る人の話による)

青梅街道 (大和通り)

野内畳屋 ●

金野自転車屋 ●

加藤床屋 ●

鹿田そば屋 ●

佐々木セットモノ屋 ●

後藤飲食店 ●

窪島お茶屋 ●

竜田文具店 ●

入江駄菓子屋 ●

矢神テラー ●

駐在所

● 桑原菓子屋

● 杉本米屋

● 依田ガラス店

● 石田ベーカリー

● 越木豆腐屋

● 赤間菓子屋

● なかみち洋品店

● 新井お茶屋

● 河原魚屋

● 鈴木下駄屋

● 高野八百屋

● 佐藤菓子屋

● 尾崎米屋

● 上岡電機店

● 林呉服屋

● 富士見湯

● 西川理髪館

● 杉本そば屋



富士見通り S39.12



富士見通りより派出所方向を望む



富士見通り 後藤屋S36.7



大和通り S39.12



南街派出所交差点 S39.11



大和通り 伏見村組 S30.2

東大和病院の歴史

- 1939年（昭和14年）；「日立航空機株式会社付属病院」が開設
- 1951年(昭和26年)；戦後に日立航空機（株）付属病院の土地と建物が、日興工業（株）から医療法人財団大和会に寄付される形で、「大和病院」（150床）が創立
- 1970年(昭和45年)；3階病棟建築(182床)
- 1989年(昭和64年)；第一期A棟；7階病棟建築(東大和病院に改称)
- 1997年(平成9年)；第二期B棟完成(238床)
- 2005年(平成17年)；武蔵村山病院開設
- 2011年(平成23年)；ほっと支援センター南街開設
- 2013年(平成25年)；東大和病院附属セントラルクリニック開設



大和通り越しに大和病院を望む



スーパーマーケットの展開

- いなげや；1960年(昭和35年)開店～現在
- 忠実屋；1975年(昭和50年)～1994年(平成6年)
- ダイエー；1994年(平成6年)～2012年(平成24年)
- ヤオコー；2013年(平成25年)～現在
- ヨーカドー；2003年(平成15年)～2024年(令和6年)
- LICOPA(ヨーカドー);2024(令和6年)～

青梅橋駅→東大和市駅の歴史

開業と名称の由来

- **1.昭和25年（1950年）5月15日**、西武鉄道の**上水線**（小川駅～玉川上水駅間）開通とともに「**青梅橋駅**」が開設されました。これは日立航空機立川工場への専用鉄道がルーツです。
- **2.**「**青梅橋**」の名前は、**野火止用水**と**青梅街道**が交差する地点に架けられた橋から取られたものです。
- **3. 電化・路線延伸**
- **昭和29年（1954年）1月12日**にこの区間は電化されました。
- **昭和37年（1962年）9月1日**に小川～萩山間が開通し、立川市へ路線が延伸、上水線から**拝島線**となりました。
- **4. 駅名の変更と高架化**
- **昭和54年（1979年）3月25日**、「**青梅橋駅**」は「**東大和市駅**」に改称されました。これは区内に複数ある「**青梅**」という地名との混同を避け、市の玄関駅としてふさわしい名称にするための市の要望によるものです。
- **5.昭和55年（1980年）7月17日**には、踏切渋滞解消を目的に**高架化**され、現在の姿になりました。
- **6. 令和6年(2024年)；無人化**
- **7.** 南口の歩道には「**庚申塔の道しるべ**」や、青梅橋の橋柱の一部が今でも見られ、江戸時代からの交通史を伝えています。

青梅橋を東大和市から小平方向に望む



昭和34年撮影



青梅橋交差点



踏切付近から駅方向を望む



青梅橋駅 519.11

青梅橋駅（現東大和市駅）前交差点



完成直前、鉄道立体化事業と従来線を走る電車（昭和55年7月）



鉄道立体化事業完成直前の状況（昭和55年6月）

その他施設の建設時期

- 校正霊園建設；1951年(昭和26年)
- モノレール；1997年(平成9年)；開通
- 森永工場建設；1966年（昭和41年）2月
- 中小企業大学校開校；1997年(昭和52年)
- 都立東大和南高校開校；1984年(昭和59年) 4月
- 都立東大和南公園の開園；1986年(昭和61年)6月

南街地区の自治会の歴史

- 現在の自治会名の命名時期

1940年9月(昭和15年)；部落会・隣組・常会が設置される。

(この時期に、今の自治会名が付与されたのではないかと推測します。

但し戦前はどの程度組織化し／活動していたか不明です)

- 昭和21年(1946年)に栄一丁目自治会が第一回お祭りをした記録がありますので、この時点で「親和、大和通り、協和一～協和三、栄一～三、末広一、二」の自治会の組織化が開始され、昭和25年(1950年)頃にほぼ確定して、現在に至っているのではないかと推測します。

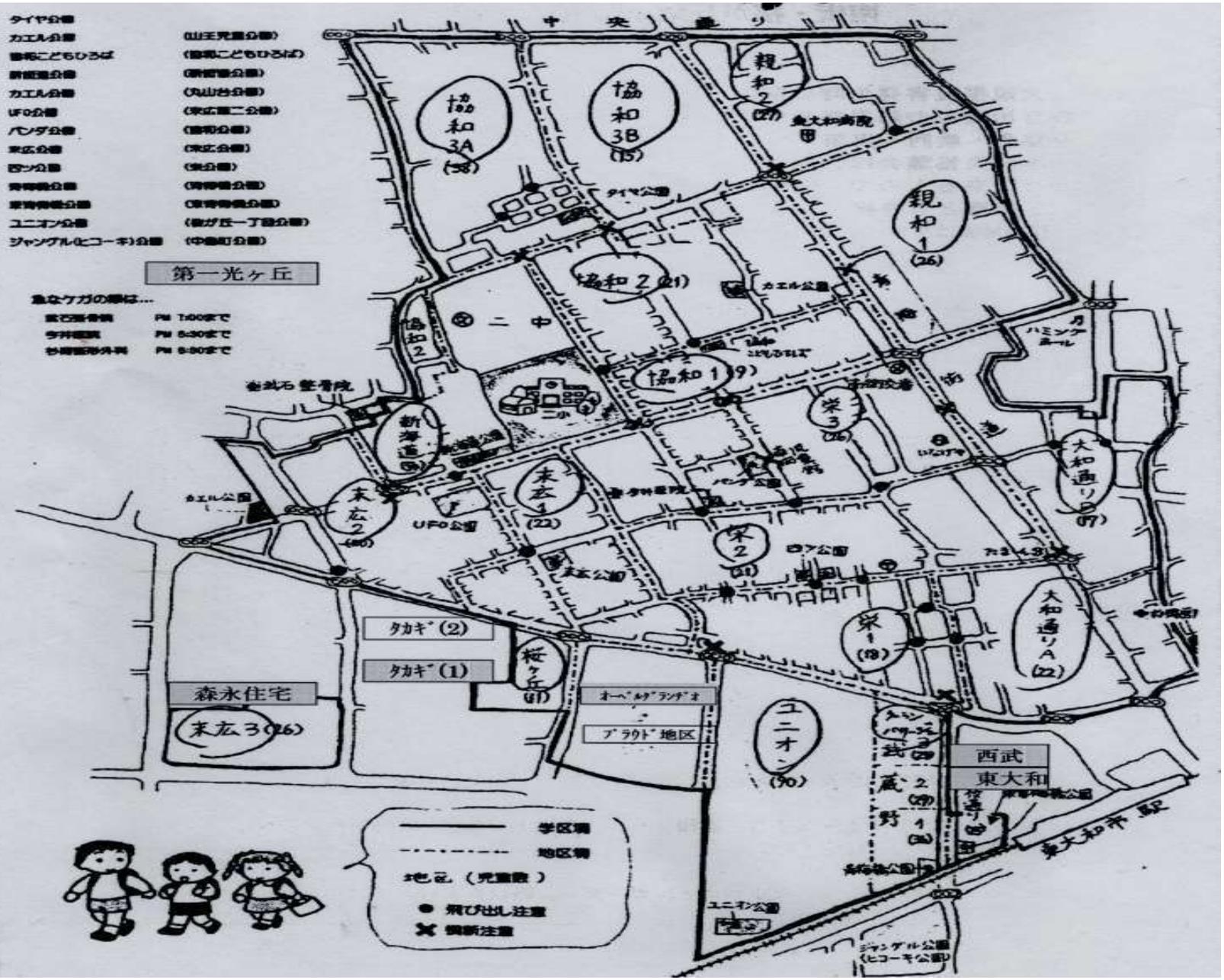
現在南街地区の自治会は、以下の通りです。

親和、大和通り、協和二、協和三、第一光ヶ丘、末広一、末広二、栄一、栄二、栄三、新海道(協和一は解散)

- タイヤ公園 (山王児童公園)
- カエル公園 (鶴見こどもひろば)
- 鶴見こどもひろば (新築公園)
- 新築公園 (丸山台公園)
- カエル公園 (東広園二公園)
- UFO公園 (鶴見公園)
- ハンダ公園 (東広公園)
- 東広公園 (東公園)
- 東公園 (海神公園)
- 海神公園 (東海神公園)
- 東海神公園 (東海神公園)
- ユニオン公園 (後ガ丘一丁目公園)
- ジャングル(ヒコーキ)公園 (中島町公園)

第一光ヶ丘

- 急な7ガの時は...
- 急ぎ通学時 PM 7:00まで
 - 学校帰来時 PM 5:30まで
 - 幼稚園外来時 PM 8:30まで



水道事業の移管／都市ガス

水道事業移管の歴史

- 南街連合自治会の管理；スタートが明確でなく戦後1945年(昭和20年)の早い時からか？～1970年(昭和46年)3月迄
南街連合自治会が管理していた時は住民は各自治会に加入する事が必須であったため為、自治会加入率は100%に近い形であったが、市に移管以降はその縛りが無くなり、水道事業の移管は自治会の崩壊の要因となりました。
- 東大和市の管理；1970年4月(昭和45年)～1973年11月(昭和48年)
- 東京都の管理；1973年12月(昭和52年)～

都市ガスの導入開始

- 1966年(昭和41年)～

南街連合自治会／南街地区自治会集会所委員会

南街連合自治会は戦後南街地区の自治会を纏めて、水道事業、お祭り及び消防団の支援を実施しておりました、現在いつ発足し、いつ解散したか、明確な日時は記録が離散して判りません。

解散の主要原因として、

- ・ 役員の高齢化で役員の引継ぎが出来なかった。
- ・ 水道事業の移管で、自治会の縛りが無くなった。

推定発足／解散時期(推定)

- ・ 南街連合自治会；1952年(昭和27年)頃発足～1988年(昭和63年)頃解散
- ・ 南街地区自治会集会所委員会；1989年(昭和64年)頃発足～



南街地区自治会集会所
(以前は学童として使用していた)

南街連合自治会が水道用事務
所として使用していた



南街地区自治会集会所倉庫
(南街睦の御神輿も保管さ
れている)

南街地区のお祭りの変遷

- 南街連合自治会の南街祭り； 1952年(昭和27年)頃開始～1988年(昭和63年)頃終了
- 南街睦の発足； 1978年(昭和53年)に神輿製作を開始し、1981年(昭和56年)8月に渡御を行い現在に至っております。
尚南街祭りは1993年(平成5年)頃まで南街連合自治会を引き継ぎ開催しました。(中止の理由は第二小学校校庭が使用禁止になった為です。
- 成連会による南街祭りの開始； 2021年(令和3年より)～
- 現在お祭りを実施している自治会名
栄一、栄二、栄三、協和二、協和三、第一光ヶ丘

お祭り関連



南街公民館関連

南街公民館等の歴史

- 市役所南街出張所 ; 1963年(昭和38年)7月開設～1991年6月廃止
- 南街老人福祉会館 ; 1970年(昭和45年)4月開設～
- 旧南街公民館 ; 1971年6月開設(昭和46年)～1991年(平成3年) 廃止
- 新南街公民館 ; 1993年5月(平成5年)開設～
- 南街消防団詰所 ; 1960年頃開設(昭和35年)～1991年(平成3年) 廃止
- 第七分団新詰所 ; 1991年(平成3年) 開設～



南街消防団詰所。左端に昭和35年9月完成した火の見やぐらの一部が見える



公民館活動の拠点として完成した市立公民館（昭和46年6月）



南街老人福祉館



新たに南街の中心的地施設となった南街市民センター（平成5年5月開館）

金融機関関連

- 郵便局
 - 1948年(昭和23年)3月；大和村郵便局分室開設
 - 1958年(昭和33年)11月；大和町南郵便局に名称変更
 - 1970年(昭和45年)10月；東大和南街郵便局に名称変更
- 青梅信用金庫
 - 1962年(昭和37年)7月；東大和店開設
- 多摩信用金庫
 - 1983年(昭和58年)6月；東大和店開設
- 三井住友銀行
 - 1990年(平成02年)04月；太陽神戸銀行開設
 - 2024年(令和06年)12月；三井住友銀行(LICOPAに移動)



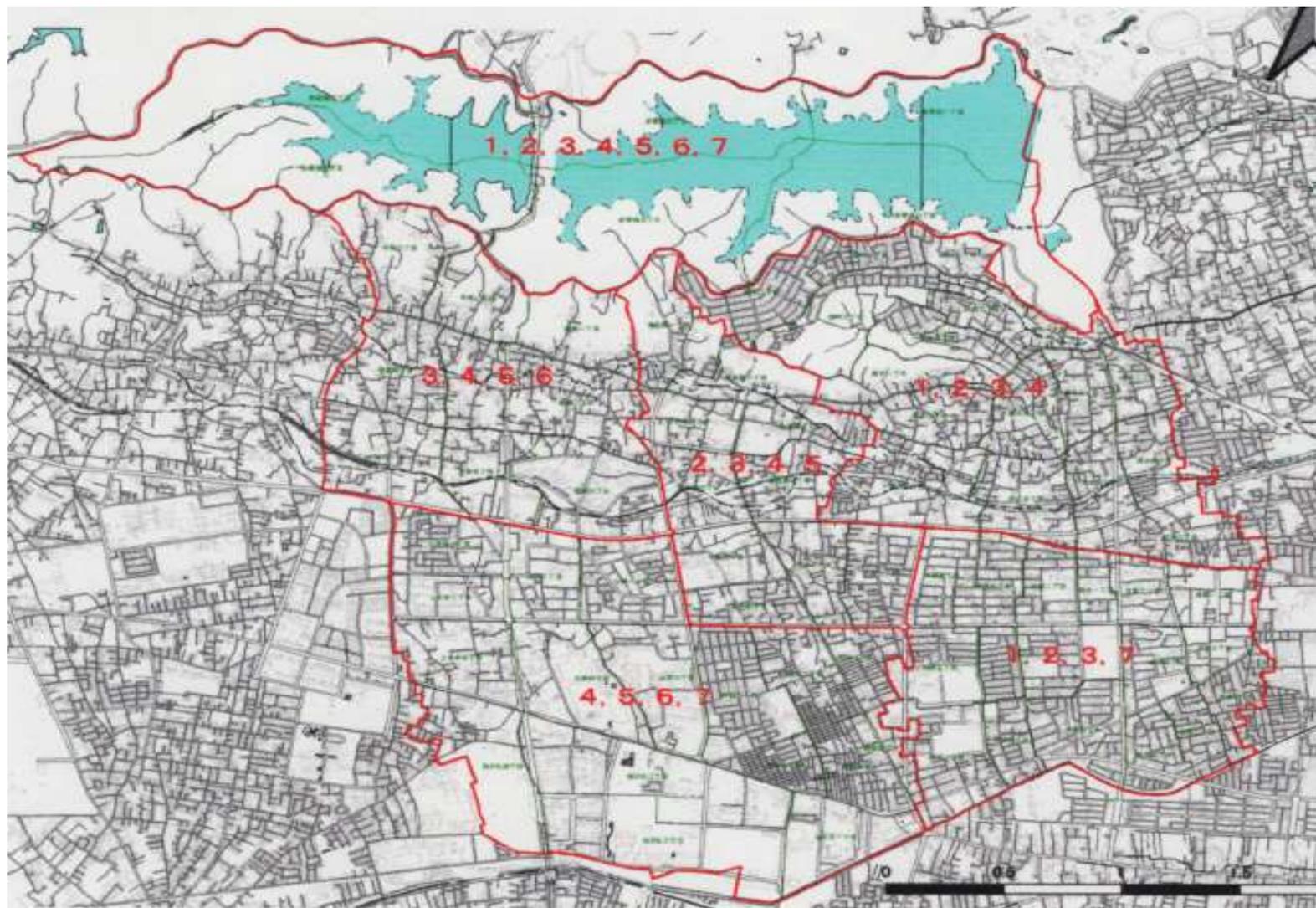
大和支店開設（昭和37年7月10日）



東大和市消防団第七分団

- 昭和22年4月；消防団令の交付；大和村は8個分団体制となる
（多分この時点で第七分団が設立されました）
- 昭和45年10月；東大和消防団となり第七分団も今に至ります。
- 南街消防団詰所；1955年頃開設(昭和30年)～1991年(平成3年) 廃止
- 第七分団新詰所；1991年(平成3年) 開設～

東大和市消防団 出場区域図



南街・桜が丘地域防災協議会

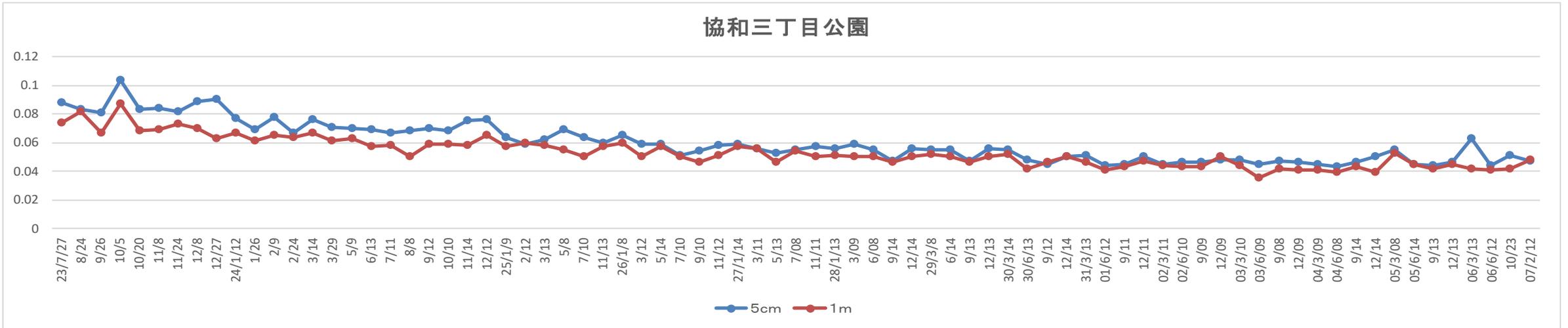
南街・桜が丘地域防災協議は2008年4月(平成20年)に南街及び桜が丘地域の自治会及びマンション管理組合(現在21団体)と第二小学校／中学校、南街公民館と共同でこの地域を安全／安心した地域にする為に結成しました。(南街連合自治会の消滅による自治会活動の活性化の目論見もありました)、現在結成以来18年目を迎えております。

- 2009年(平成21年)；地デジ放送切り替えで、地域電波強度測定、以降東京都と調整し、「マイテレビ」との格安契約取り付け
- 2012年(平成24年)；第一回東京防災隣組に認定される。
- 2011年(平成23年)；東日本大震災／福島原子力発電所の事故発生
；同年7月より地域公園17カ所の空間放射線量測定開始
- 2013年(平成25年)；内閣府白書報告
- 2023年(令和5年)；コミュニティースクールの開始により二小／二中と一層の連繋の強化

空間放射線量測定結果(12年間の実績)

1 協和三丁目公園																							
付表1																							
高さ	23/7/27	8/24	9/26	10/5	10/20	11/8	11/24	12/8	12/27	24/1/12	1/26	2/9	2/24	3/14	3/29	5/9	6/13	7/11	8/8	9/12	10/10	11/14	12/12
5cm	0.088	0.083	0.081	0.104	0.083	0.084	0.082	0.089	0.090	0.077	0.069	0.078	0.067	0.076	0.071	0.070	0.069	0.067	0.068	0.070	0.068	0.075	0.076
1m	0.074	0.082	0.067	0.087	0.068	0.069	0.073	0.070	0.063	0.067	0.061	0.065	0.064	0.067	0.061	0.063	0.057	0.058	0.050	0.059	0.059	0.058	0.065
高さ	25/1/9	2/12	3/13	5/8	7/10	11/13	26/1/8	3/12	5/14	7/10	9/10	11/12	27/1/14	3/11	5/13	7/08	11/11	28/1/13	3/09	6/08	9/14	12/14	29/3/8
5cm	0.064	0.059	0.062	0.069	0.064	0.060	0.065	0.059	0.059	0.051	0.054	0.058	0.059	0.056	0.053	0.055	0.057	0.056	0.059	0.055	0.047	0.056	0.055
1m	0.057	0.060	0.058	0.055	0.050	0.057	0.060	0.050	0.057	0.050	0.046	0.051	0.057	0.056	0.046	0.054	0.050	0.051	0.050	0.050	0.046	0.050	0.052
高さ	29/6/14	9/13	12/13	30/3/14	30/6/13	9/12	12/14	31/3/13	01/6/12	9/11	12/11	02/3/11	02/6/10	9/09	12/09	03/3/10	03/6/09	9/08	12/09	04/3/09	04/6/08	9/14	12/14
5cm	0.048	0.044	0.054	0.046	0.048	0.045	0.050	0.051	0.044	0.045	0.050	0.045	0.046	0.046	0.048	0.048	0.045	0.047	0.046	0.045	0.043	0.046	0.050
1m	0.042	0.052	0.050	0.047	0.042	0.046	0.050	0.046	0.041	0.043	0.047	0.044	0.043	0.043	0.050	0.044	0.035	0.042	0.041	0.041	0.039	0.043	0.039
高さ	05/3/08	05/6/14	9/13	12/13	06/3/13	06/6/12	10/23	07/2/12															
5cm	0.055	0.045	0.044	0.046	0.063	0.044	0.051	0.047															
1m	0.053	0.045	0.042	0.045	0.042	0.041	0.042	0.048															

協和三丁目公園		
単位: $\mu\text{Sv/h}$		
測定高さ	測定日	放射線量
	23/7/27	0.088
	07/2/12	0.047
5cm		46.59%
1m		35.14%



東京防災隣組



2012
東京防災隣組
DVD付

東京都

9. 内閣府白書関連

平成25年6月に内閣府白書「平成25年度の防災に関する計画」で防災協議会の活動が国会で報告されました。白書の内容は以下の通りです。

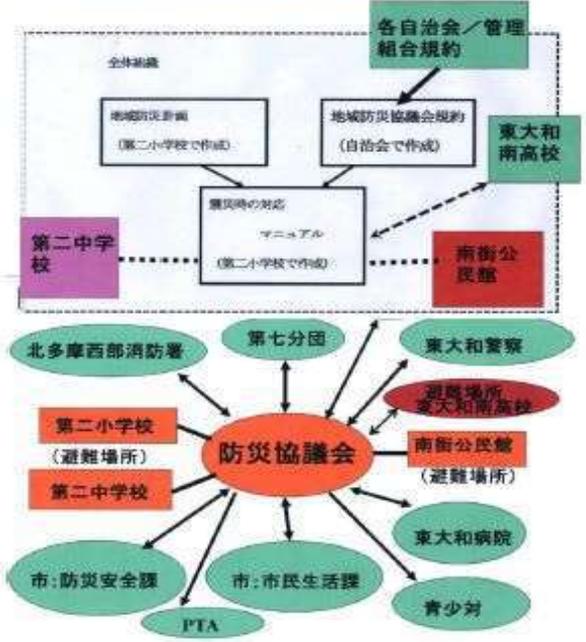
「南街・桜が丘地域防災協議会」は東京都東大和市の南部に位置し、南側に新しい高層マンション群が立ち並ぶ若い世代が多く居住する桜が丘地域のマンション管理組合と、道を隔てて北側には低層戸建て住宅が立ち並ぶ比較的高年齢者が多く居住する南街地域の自治会の性格が相違する二つの地域の21団体が地域内にある市立小学校、市立中学校、都立高校及び関連行政諸機関と連携して防災活動を含む地域の活性化に繋がる種々の活動をしております。

この地域は関東平野の中であり山も川も海も無く、高低差も少ない天災地変（津波、川の氾濫、崖崩れ、液状化）の影響のない地域ですが、災害時低層戸建て住宅の多い南街地区では家屋の倒壊及び火災が問題になります。小学校及び中学校は住宅の密集する南街地域にあり、マンション地域の子供達は南街地区を通過して通学しております。この様な環境の中から双方の地域差を乗り越えて学校を中心として「どの様にして災害から子供を守る事が出来るか」に着目して地域内の自治会、マンション管理組合及び小学校/中学校（含むPTA）と平成19年度から予備調査を開始して平成20年に当該協議会を設立しました。以降主要防災活動として総合防災訓練、可搬ポンプ操作訓練、救急救護訓練及び地域病院とのトリアージ訓練を実施し、その他に地域活性の為に地デジ関連の問題の解決、地域放射線量の測定、食品の簡易放射線量測定を実施しており、これらの活動が評価され平成24年度に東京都防災隣組第一回の36団体に認定され、又都立東大和南高校と新たに防災協定を締結しました。

地域の状況（マンション群と低層戸建て住宅地域）



南街・桜が丘地域防災協議会全体組織



総合防災訓練の集合状況



これからの南街を考えると(1)

- 東大和市がこのまま発展が停滞すると、**都会の過疎地域**になってしまうのではないか！現在実施している**大型インフラ事業**としては、下記のみです。
 - 空堀川上流雨水幹線事業(P14～P18参照)；いずれ富士見通りの地下にも延伸されます。
 - 都市計画道路3.4.17号線の拡張／無電柱化→**この延伸が重要です。**



この部分の延伸が必要！！

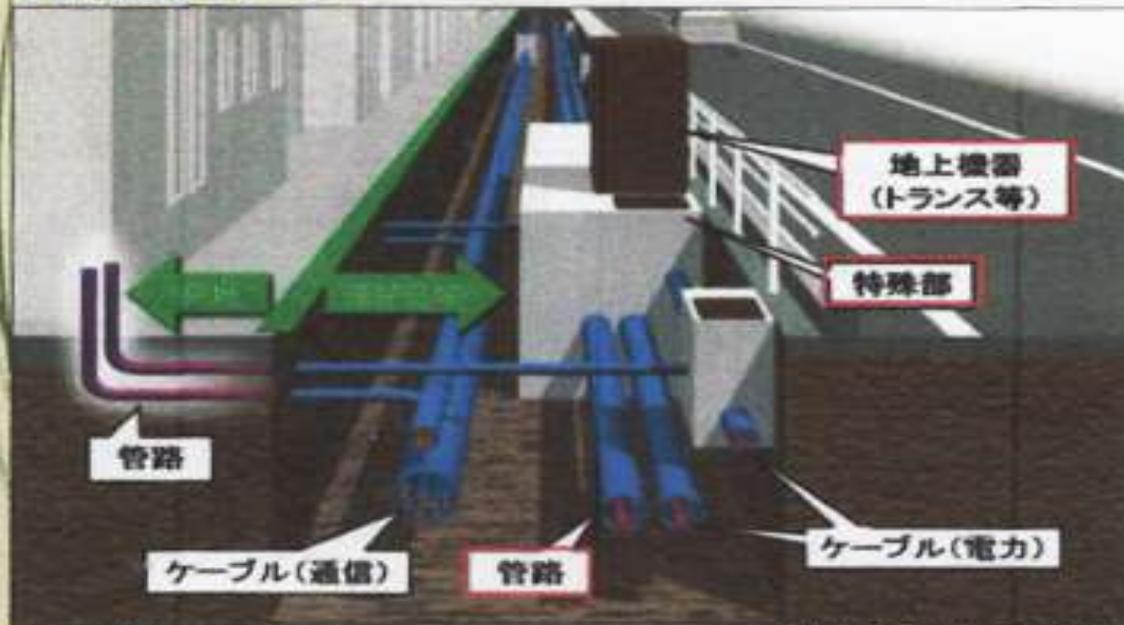
都市計画道路3.4.17号線の拡張／無電柱化

電線共同溝（C・C・BOX）とは

35

『電線共同溝』とは、『無電柱化』のひとつの手法で、道路下に管路やコンクリートボックスで電線の収容空間を確保し、電柱に架かる電力線・通信線を地中に埋設して、電柱をなくすことです。『電線共同溝』は、主に【管路部】 【特殊部】 【地上機器部】で構成されます。

電線共同溝イメージ



【管路部】：

塩化ビニル等の管路で中にケーブルを敷設し、特殊部同士を接続するための設備

【特殊部】：

コンクリート製の箱型構造でケーブルの接続や分岐を行う機器を収容し管理するための設備

【地上機器部】：

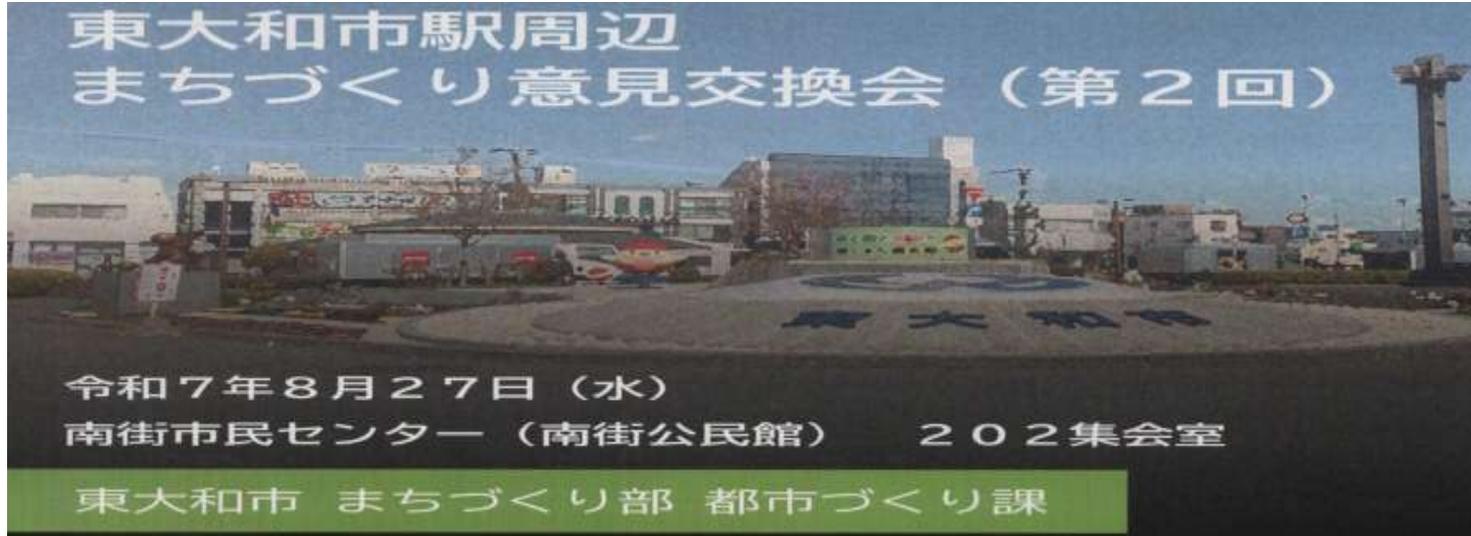
電力変圧器（トランス）や開閉器、ケーブルテレビの増幅器等を収容する機器で地上に設置される設備

入線を予定する電気通信事業者
東京電力・NTT・KDDI・JCOM・その他
道路管理者 ほか

【出典】国土交通省HP

これからの南街を考えると(2)

- ・現在；「東大和市駅前周辺街づくり」の検討が開始されておりますが、**東大和駅前の開発の方向づけ**は大変重要な案件です。



- ・ **次世代人材の新しい「イベントの芽吹き」を継続させる事が必要**
 - ・ 南街まつり
 - ・ 東大和市駅高架下の夜市
 - ・ ヒガシヤマトみらい基地の各種活動

邦歴から簡易西暦変換計算式(下2桁)

- 昭和VS西暦

換算式；昭和歴 + 25 = 西暦

例； 20年 + 25 = 45年

- 平成VS西暦

換算式；平成歴 + 88 = 西暦

例； 1年 + 88 = 1989年

- 令和VS西暦

換算式；令和歴 + 18 = 西暦

例； 7年 + 18 = 2025年

ご清聴ありがとうございました